

文部科学省委託事業

「キャリア教育・就労支援等の充実事業」

平成27年度

研究紀要

研究主題

キャリア発達支援の視点による
小中高12年間を見通した学習活動の充実改善
(二年次)

ごあいさつ

本校では、これまでの研究成果を引き継ぎながら、平成 25 年度からキャリア発達支援の視点を取り入れ研究を進めてまいりました。昨年度からは「キャリア発達支援の視点による小中高 12 年間を見通した学習活動の充実改善」という研究テーマで、文部科学省のキャリア教育・就労支援等の充実事業を受託しております。今年度は 3 年間の研究期間の中間年となります。

一年次である昨年度は、概念を整理し共通理解するとともに、その概念にもとづく授業実践に取り組みました。二年次である今年度は、一年次の課題をふまえて、各部での授業実践と並行して、小中高 12 年間を見通して学習活動を充実改善させるための観点や学習内容の系統性・独自性についても検討しました。外部講師を招いての研修会や全学部合同のワークショップなどを通して、部を超えて教員一人一人が小中高の 12 年間を見据えながら、日々の取り組みについて見つめ直すことができました。

また、昨年度の課題であった「活動中に観られた子どもの『行動や言動を含むあらわれ』をどのような方法で見取るのか」について、つまりキャリア発達支援における評価のあり方についても検討してきました。評価を研究内容に加えることは 1 つのチャレンジでした。評価方法はさまざまありますが、本校では、子どもの「内面」の変化をとらえて質的に丁寧に見取ることになりました。評価は目的ではなく手段であり、評価を活用して子どもたちのキャリア発達をどう支援していくのか、子どもたちがよりよく学ぶためにどうしたらよいか等、教育活動の改善につながる評価であることを常に念頭におきながら進めました。まだまだ多くの検討課題がありますが、議論のための一つの提案となれば幸いです。

キャリア教育は、子どもたちが、将来、学び、働き、生活し、主権者となり、他者と協同しながら社会参加していくことのできる能力を獲得するための教育です。将来を見据えつつ、「今」の学びや生活を充実させ、その一つ一つの積み重ねのプロセスがその子のキャリア発達となります。教師にとっては、日々の授業のあり方や学校教育のあり方、社会のあり方について問うこととなります。

本テーマでの研究は、次年度で 3 年目が終了し 1 つの区切りとなります。次年度はこれまでの成果と課題をふまえながら研究をまとめてまいります。教育研究会にご参加の皆様ならびに本研究紀要をご高覧の皆様には、忌憚のないご意見やご教示をいただきましたら幸いに存じます。

最後になりましたが、本校の研究にご指導・ご助言をいただきました多くの皆様に、心よりお礼申し上げます。

校長 綿引 伴子